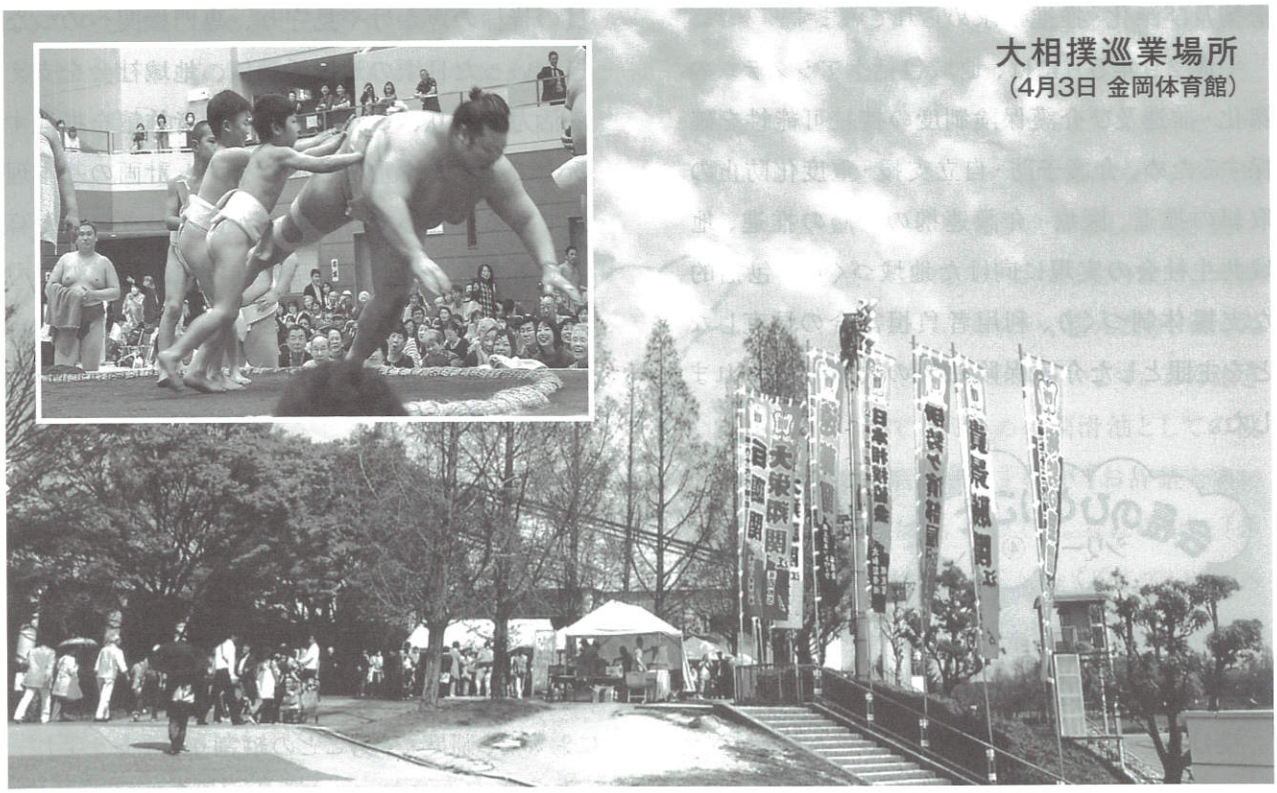
みんじれん堺

第 62 号
発　行　平成30年6月
発行者　堺市民生委員児童委員連合会
住　所　堺市堺区南瓦町2番1号
電　話　072-232-5420
発行責任者　堺市民生委員児童委員連合会 会長 加納　剛

これからも地域とともに 100

支えあう 住みよい社会 地域から

特集:児童委員・主任児童委員に聞く児童委員制度創設70周年



大相撲巡業場所
(4月3日 金岡体育館)

地域に寄り添う支援

昨年は民生委員制度創設100周年。また今年は大阪府で始まりました方面委員制度から100周年という誠に慶ばしい年となっています。これもひとえに先人たちのたゆまない努力の結集だと思います。このすばらしい制度を未来に継ぐことが我々に課せられた義務だと痛感しています。

私たち民生・児童委員は、地域の身近な相談者として日々活動しています。それには地域住民との信頼関係がなければ成り立ちません。相手と同じ目線に立ち傾聴すること、それを専門機関につなげることが何よりも大切であると思います。常に住民の立場に立ち、何をどうしたら安心して生活ができるのか見極めることが求められています。活動も高齢者の問題、子どもの問題、障害者の問題と多岐にわたっています。

天地人

堺市も介護予防と健康づくりとして“大切な あ・し・た!”をスローガンに、健康長寿を提唱しています。我々民生・児童委員も心身ともに健康でなければ務まりません。自分自身を大切にしながら自分の立ち位置をしっかり考え、“何気なく”“さりげなく”“それとなく”相手に寄り添う支援を心がけたいものです。

連合会副会長　中辻 さつ子

高齢者を地域全体で支える保健福祉の仕組みづくりに向けて

堺市健康福祉局長寿社会部 部長　山本　甚郎

高齢化の急速な進展により、団塊の世代が75歳以上となる平成37（2025）年に向けて、地域で医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステム（高齢者を地域全体で支える保健福祉の仕組み）の構築及び深化・推進が求められています。

平成29年5月には、地域包括ケアシステムの深化・推進及び介護保険制度の持続可能性を確保するため、介護予防・自立支援・重度化防止の取組の推進、医療・介護連携の一層の推進、地域共生社会の実現に向けた地域づくりや包括的な支援体制づくり、利用者負担割合の見直しなどを主眼とした介護保険法等の改正が行われました。

これらを踏まえ、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、平成32年度までの3年間の取組をまとめた「堺市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を平成30年3月に策定しました。民生委員児童委員の皆様の声かけや見守り、専門機関へのつなぎといった日頃の地域活動は、地域社会を支える活力であり、これからの高齢者施策を推進する上でますます重要となります。計画の基本理念である「安心で　すこやかに　いきいきと暮らせるまち　堺」の実現に向けて、皆様のお力添えをいただきながら、ともに取り組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

会長のひとりごと シリーズ④

まだまだ続く100周年

堺市民生委員児童委員連合会 会長　加納　剛

私たち民生・児童委員の世界では、昨年は制度創設100周年記念の年を迎え多大な感銘を受けました。様々な記念事業や行事が行われたことも記憶に新しいところです。その際には、私はこの制度を今につないでくれた先人・先輩の皆様に改めて感謝するとともに、新たな100年へのスタート台に立ったことの責任を痛感したものでした。

今年は大正7（1918）年大阪府で生まれた「方面委員制度」が100周年を迎えます。岡山県「済世顧問制度」とともに現在の制度の源流と謂われています。正直な話し、現在の制度により近いものは「方面委員制度」であり、今年も意義ある100周年の節目の年であることに全く異論はありません。100周年記念は当分の間まだまだ続くといったところでしょうか。

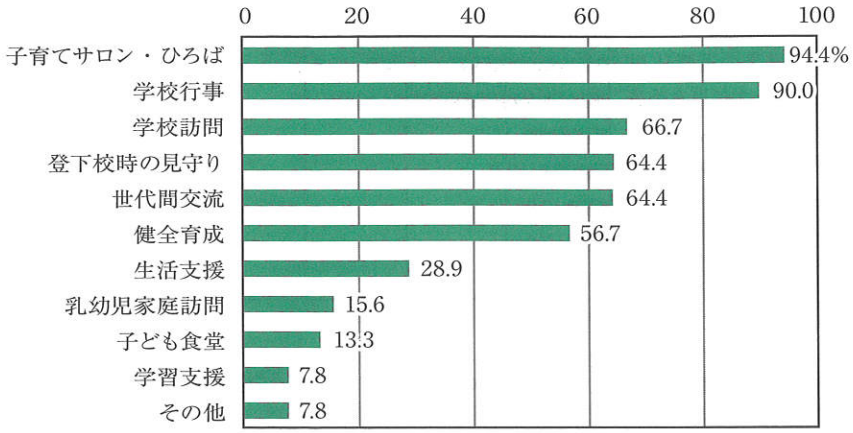
さて今、私たちにとって国民的な課題である福祉理念は「地域共生社会の実現」です。地域において、制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて皆が『我が事』として参画し、世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民の暮らしや生きがいをともに創っていく社会を実現しようという考えです。おとなや子どもも高齢者や障害者も全ての人たちが力を合わせ、平和で穏やかで暮らしやすい地域社会を創ろうという考え方のことですね。

少なくとも地域福祉の活動に関わりの深い私たち民生・児童委員にとって、「地域共生社会の実現」のため尽力することは当然であり骨惜しみする気はありません。「地域で一番身近な相談者・支援者」として次の100年に向かってスタートします。GO！

特集　児童委員・主任児童委員に聞く児童委員制度創設70周年

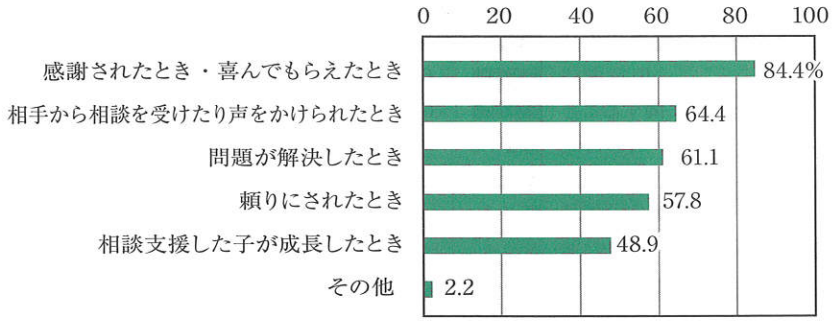
平成２９年は児童委員制度創設７０周年の節目の年でした。本号では、各校区児童委員・主任児童委員の活動事例に学び、さらに活動を推進するため、全校区対象にアンケートを実施しました。（回収率 96.8 %）

1. 児童委員・主任児童委員活動で、現在、主に、どのような活動をされていますか？（複数回答）



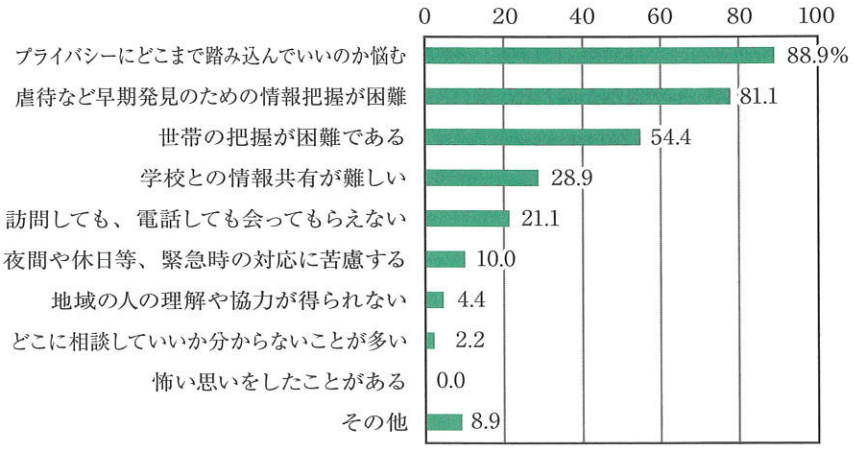
その他　・母子（障害者）家庭の見守り訪問　・校区定例会で小、中学校長または教頭との情報交換
・学校協議会　・子どものことでお母さんからの相談　・町内巡視見守りなど

2. 児童委員・主任児童委員の活動にやりがいを感じたときについて、該当するものを選んでください。（複数回答）



その他　・登下校の見守りや学校行事に参加するので、子どもたちと笑顔で挨拶ができるようになれた。
・校区のためにやっています。頼まれてやっていますので、やりがいより義務感の方が強い。

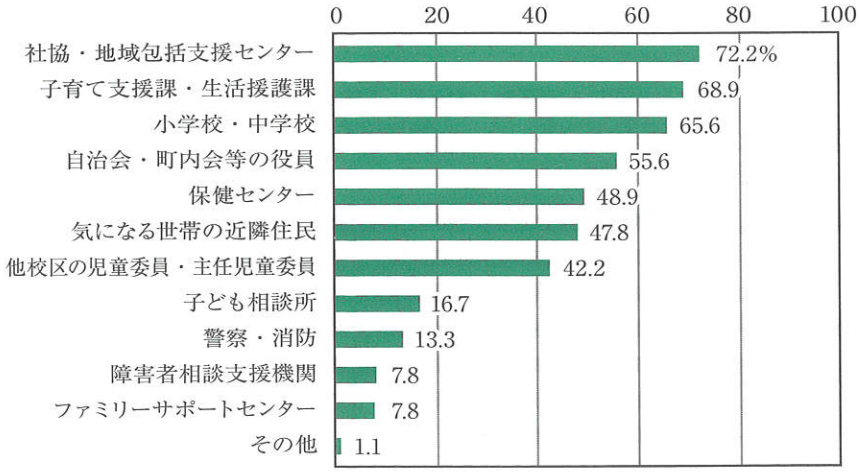
3. 児童委員・主任児童委員の活動で困っていることは何ですか？ 下記の中から3つ選んでください。



その他　・親しすぎて児童委員としての話がしずらい。・学校の閉鎖的な姿勢が問題
・学校側はこちらの情報を受け取れるが、学校側からの情報提供はない。
・児童数が極端に減少しており、把握するのが困難　・就業中であり、ほとんど時間が取れない。
・自治会に所属してない方が多くなっている。

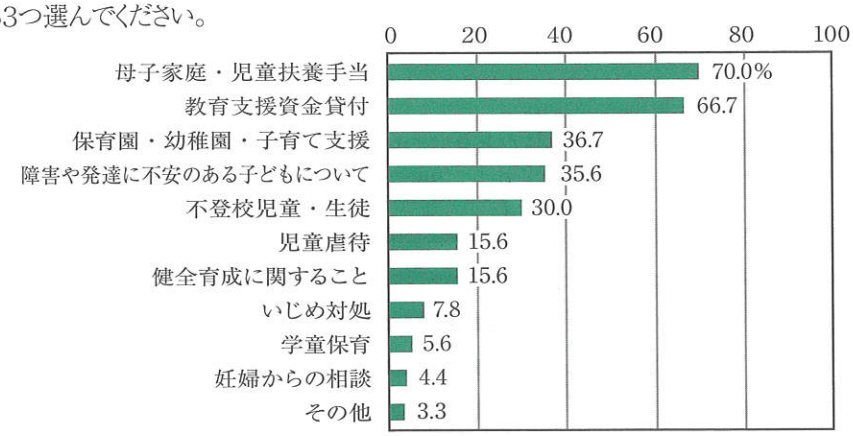
特集　児童委員・主任児童委員に聞く児童委員制度創設70周年

4. 児童委員・主任児童委員として課題解決のために連携した関係機関・団体等について、該当するものを選んでください。（複数回答）



その他　・同校区の民生・児童委員の先輩

5. 児童委員・主任児童委員として扱われた相談・証明事務のなかでは、どのような案件が多いですか。多いものから3つ選んでください。



その他　・転校による就学状況確認　・住民票はそのままで、学校を転入する時の書類に記名する。

いちばん困難であった問題と相談結果

児童虐待

・通報を受けても、そう簡単に立ち入ることができない。

・虐待かどうか判断が難しい。

・情報が少なく間接的に見守る対応しかできなかった。

・こども相談所が専門的対応を行なった場合においても、その後の継続的な見守りを続けている。小学校でケア会議を実施した。

・子ども相談所に、一時預かりとなったお子さんについての情報が個人情報保護法のもと、民生・児童委員にも開示されず、保護者が大変不安になった。結局、何の力にもなれず、お子さんは1ヶ月間、親もとを離された。

不登校・ひきこもり

・家庭での様子の把握が難しく、どの範囲まで介入すればいいのか判断に困った。児童との接し方や児童への働きかけについて家庭の理解を得るのが難しい。

・中学卒業後もひきこもりの状態が続いている子どもへの対応に苦慮している。卒業後も継続して訪問活動を続ける必要がある。

・連携機関：子育て支援課、スクールカウンセラー、子ども家庭支援センター、ユースサポートセンター

DVの家庭

・夫の暴力から逃れてきた家庭の生活支援に関わっていたが、どこまで支援が必要か、悔いが残った。就労のため留守がちの家庭で、接触が難しかった。

・DVで夫から逃げてきた母子家庭で、子どもの健康保険証が夫のところにあるため、新たな保険証を作ることができなかった。

児童委員・主任児童委員に聞く児童委員制度創設70周年　特集

子どもの学校生活支援

・発達障がいの疑いとのことからケア会議を開き、家庭環境に配慮しながら対応したが、直接的な関わりは持てなかった。間接的な相談を受けることが多い。

・子育てサロンで問題行動が目立った子ども（のちに発達障害と診断）の親の協力（問題意識）がないため、見守ることだけであった。入学後、行動が顕著化し、同級生の保護者から相談を受ける。児童委員として予防対応、連携ができなかったことを残念に思っている。

学校に対する苦情対応

・学校と保護者との面談に同席している。保護者の理解が十分でないことが多い。保護者の気付きが必要であるが、どこまで介入していいのか判断が難しい。

教育支援資金貸付

・保護者となかなか連絡がとれないことがある。

・償還に滞りがある人に対する接し方が難しい。

子育て支援活動

・毎回、何組の親子が参加してくれるか心配である。

・子育てサロンや子育てひろばの実施が困難である。

証明事務

・家庭の状況がよく分からず、証明書類を発行してよいかどうか悩むことがある。

情報共有

・学校から地域に対する情報発信が少ない。

・問題が発生した場合の学校の説明は不十分である。

・行政などからの情報提供が少なく、地域で支援を必要としている人がどこにいるのか分からない。

力を入れて取り組みたい活動

子育て支援

・特に出産後の世帯、0～3歳児の母子、外国籍の親子に対する子育て情報の提供、支援の活動。

・子育てサロンの活動を発展的に続けたい。

・月1回の子育てサロンでお母さんが精神的にゆっくりできる場にしたい。

・子育てサロンや地域で多くの人が集まれる場作りをこれからも続けたい。

児童虐待・いじめ防止

・児童虐待、いじめを早期に発見すること。

・背景にある状況把握に努めたい。

・児童虐待やいじめ対策について勉強し考えたい。

障がいのある子ども支援

・日常的な相談対応と必要なサービスを安心して受けられるように専門機関につなぐこと。

・親の高齢化や障がいのある子どもの孤立を防ぐ支援

見守り、声かけ活動

・就学前の子どもの安全、見守り活動

・登下校の見守りや声かけを通じて子どもたちの身近な存在になりたい。

地域で子どもを育てる

・子ども食堂の取り組みを検討したい。

・関係機関と連携して、スポーツ活動や学習面のサポート、健全育成、見守り活動を強化したい。

情報共有

・学校・保護者と情報交換できる環境づくり。

・地域に相談できる児童委員・主任児童委員がいるという情報を提供したい。

孤立の防止

・誰にも相談できないまま深刻化しないように地域情報の把握と早期発見に努めたい。

・孤立しないために、隣近所で声を掛け合い、より良い地域づくりを目指したい。

《おわりに》

新年度・新学期が始まり、入学式では緊張していた新1年生もランドセルを上下させて走りながら下校する姿を見かけるようになりました。

今回は、子どもや子育て世帯への支援に関するアンケートを実施して、これからの児童委員・主任児童委員活動の参考にしていただけるよう編集しました。

記入していただいた活動事例を全部紹介することはできませんでしたが、このアンケートにより児童委員の活動を振り返り、児童委員制度創設70周年を期に児童委員として積極的な活動ができるように勉強したいとの意見をいただきました。

小鳩の伝言板

専門委員会だより

共生の一歩

障害者福祉委員会報告

障害者福祉委員会の全体研修会が1月28日（日）に堺市障害者自立支援協議会と共催で２５０名を超える参加者を得て、堺商工会議所大会議室で開催しました。

テーマ：「自分らしく」フォーラム２０１８
～いつまでも住み続けたい堺であるために～
第１部　みんなで考える「私たちの住む町って？」
第２部　パネルディスカッション
「私たちにできること　あなたにできること」

第２部のパネルディスカッションでは自立支援協議会会長の三田先生の司会進行で、障害当事者部会の代表２名と民生・児童委員代表２名で情報交換を行い、相互理解を深めることができて有意義な研修会であったと思います。今後も障害者理解を深め「共生社会」の実現を願っています。　（委員長　西川 久信）

講演会に参加して

主任児童委員会報告

堺市主任児童委員会では、平成２９年度最後の研修会として、２月２６日（月）午後２時から堺市総合福祉会館６階大ホールを会場に、講演会を行いました。関西大学人間健康学部の杉本厚夫教授に、仲間はずれを過敏に怖がる現在の子どもたちの状況等を踏まえ、「遊びができない今の子ども達」をテーマにお話いただきました。

先生は、すべての子どもたちが遊びを通して成長する社会の実現を目指し、２０年間にわたって、研究されています。

当日は、主任児童委員６６名が参加しました。

今回の研修は、主任児童委員に求められる役割に鑑み、保護者も含めた地域における子どもたちの居場所づくりの支援のあり方について考えることを目的として開催し、参加者一同、深い感銘を受けました。

（主任児童委員　田谷 孝壽）

高齢者と認知症

高齢者福祉委員会報告

統計によると高齢者になれば15％の確率で認知症になる。その認知症を知ろうと高齢者福祉委員会で研修会を実施した。軽度認知症、若年性認知症と高齢者認知症の違いを教えてもらった。認知症のことを一応理解しているつもりであったが目からウロコが落ちる思いであった。自分自身、何の裏付けもないのだが変な自信で認知症にならないと思っていた。認識を改めなければならない。

認知症になってもできる限り住み慣れた地域に暮らせるよう地域共生社会を目指し、行政の指導で「地域包括ケアシステムの構築」の礎づくりの取り組みを急がなければならない。

（委員長　小寺 三郎）

研修会を糧に

生活福祉委員会報告

昨年9月に生活福祉委員を対象に行ないました、生活困窮者支援の研修会で実施したアンケートの結果、詳しくわからなかった「すてっぷ・堺」の取り組みがよくわかりましたなどの意見をいただきました。研修会で得た知識を今後の活動に活かしていただければと思います。

社会福祉制度も充実してきましたが、今日においても、支援を求める人が数多く存在していると思います。また、支援するサービスがあっても、それを知らない人も少なくありません。こうした人びとを発見し、公的な福祉制度につなぐことが必要です。

昨今は個人情報保護の意識が高まり、地域の情報が入りづらいこともありますが、訪問活動を通じ、行政とのつなぎ役を果たしていただければと思います。

（委員長　谷本 正洋）

里親制度の発展について

児童福祉委員会報告

児童福祉委員会では、昨年10月に実際に里親をしておられる方を招き、「里親制度の説明、里親からの体験談」というテーマの研修会を開きました。直にお話しを聞いてみることで、里親制度についてより理解が深まり、今まで以上に身近に感じることができました。

現在、さまざまな家庭の事情で親とともに暮らせない子どもが増加してきています。そういった子どもに寄り添える里親制度が今後広がっていくためにも、今回研修で我々が里親制度について身近に感じたように、まずは人々に「知ってもらう」ことが大切となってきます。今後も研修等を通じさらなる制度の発展を願っています。

（委員長　柳本 正美）

民生委員児童委員の日 駅頭啓発

5月10日、竹山市長、野里堺市議会議長、静堺市社協会長はじめ堺市民児連、行政、社協関係者、約40名が参加し、堺東駅周辺で啓発活動が行われました。

「民生委員です」、「身近な困りごとは民生委員までご相談ください」の声掛けとともに、啓発グッズを市民の皆さん手渡しました。

校区めぐり

地域と共に

錦綾校区　信田 禮子

大和川沿いにある錦綾校区は、人口約5,500人。民生・児童委員は主任児童委員を含め11人が担当しています。31年前の地域福祉活動が活発化した頃から、校区福祉委員会活動の中心的なメンバーとして企画運営を担っています。

ひとり暮らしの高齢者対象の活動から世代間交流、サークルふれあい、広報活動など昨年は「キッチン錦綾」という子ども食堂も始めました。

グループ活動から見えてきたことを個別対応に活かすようにと活動しています。

喫茶 市ちゃん 子育てポッポちゃん

市校区　大口 紀子

校区福祉委員会の取り組みで、民生・児童委員とボランティアが共に、ふれあい喫茶を月2回、第2・4土曜日の午前に行っています。平成12年の発足以来、高齢者のふれあいの場として本格コーヒーのおいしさもあって、毎回約40人が来られます。笑い声もあちらこちらで聞かれ盛況です。

地域包括も交え介護、健康相談もあり、校区内での諸々の相談や打ち合わせの場となっています。また、月1回子育てサロン〝ポッポちゃん〟を開き、母子20～30組の参加で、楽しいふれあいの場となっています。

朝市、ゆやっこ食堂

熊野校区　木村 悦三

熊野校区は堺市役所などの官公庁や堺東駅前の繁華街と山之口商店街を抱える賑やかな校区です。

当校区では、子どもたちの健全育成に力を入れた活動をしています。昨年10月に新設した『ゆやっこ食堂』を6回開催しました。1/2成人式や6年生を対象としたテーブルマナー教室を実施しています。

また、地域交流や世代間交流の場として『ゆや朝市』を開いています。地元の商店や障害者事業所も参加し、新鮮な野菜の販売、ふれあい喫茶も開催し、特に7月には流しそうめん、12月には餅つき大会などを行ない、大盛況です。これらの活動を通じて、高齢者と子どもたちと共に、地域のつながりを深める校区をつくりあげたいです。

認知症キッズサポーター養成講座

鳳校区　龍野 信隆

平成24年、「認知症キャラバンメイト養成研修」が行われ、校区から2名の民生・児童委員が参加、「認知症キャラバンメイト」となった。

同年、地域会館で住民48名を対象に「認知症サポーター養成講座」、翌年からは鳳小学校で6年生を対象に「認知症キッズサポーター養成講座」を毎年開催、さらに、平成27年からは鳳中学校でも講座を開催、小学校では4年生を、中学校では1年生を対象に講座を開催することになった。

講座の後で生徒の感想文「これからはお年寄りにやさしくします」。それに対する保護者のコメント「学校で認知症についての学びに感謝」との記述に鳳校区が将来皆にとって住みやすい町になることを確信している。

校区めぐり

地域連携・相互協力を大切に

白鷺校区　宮前 久数

白鷺小学校は昭和４０年に開校し、校区は旧集落・新興住宅・団地とで構成されています。

自治会は２４もあり、連合自治会は小学校を中心として、地域連携・相互協力を大切に運営されています。５０年を経過した今、児童数は３１５名、６５歳以上の高齢化率も３５％となり、特に団地の高齢化は著しいものがあります。

民生・児童委員会も「いきいきサロン」を担当し、毎年盛大に開催しています。今年は、講演と健康体操そしてお茶を飲んで、最後にビンゴゲームをして、にぎやかに楽しく終わることができました。

上神谷校区紹介

上神谷校区　大下　肇

上神谷校区は南北に約４キロと長く、田畑や緑豊かな昔の面影がまだまだ残っている。また、校区全体の繋がりが強く、隣組の組織が充実していて、全ての人たちの顔が見え、隣近所との付き合いや民生・児童委員との交流も気軽にでき、高齢者からこどもまでが安心して生活できる校区である。

いっぽう校区には１０自治会があり、内３自治会が隣接する他校区の小学校に通学し、４つの小学校に分かれる特異な校区である。

見守りが必要と感じてもらえるよう

五箇荘東校区　平川 知和

大阪市に隣接し人口が増える一方、高齢化率は横這い、実質高齢者は増えている。旧来の村的思考と、都会的な思考の人たちが混在した校区。

20年前から取り組んでいる高齢者への「いきいきサロン」は、当時の民生・児童委員とボランティアが中心となって始める。主体を民生・児童委員からボランティアへと移し、成熟した活動を続けている。次代の高齢者と地域の人に、見守り活動の意義と必要性を感じていただけるよう続けていきたい。

研修と親睦

美木多校区　西田 康信

わが校区は、村落とニュータウンの地域で課題は多岐にわたる。従って、委員は「チーム美木多」の力量をつけるべく努力している。研修と親睦を合言葉に委員会を運営している。定例会では、必ず事例研究と情報交換の場を設定。また、小・中学校の校長も参加し情報交換をして、課題解決に取り組んでいる。

また、子育てサロン運営、高齢者・子ども見守り、小・中学校マイスタディの学習支援などの活動も行っている。

昔に？戻れ

五箇荘校区　森田 敏治

ある連合町会長が私に言った。「民生・児童委員だけで現在の状況に対応することは困難である。昔の隣組のような助け合いが必要である」と。

五箇荘校区は今と異なり長い間、四方八方水田に囲まれていて、農家はお互いに助け合わなくては生きていくのが困難な時代であった。

行政は「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを」とのことであるが、個人だけでは無理で、そのためには常日頃からコミニュケーションがとれる環境づくりが何より大切である。

校区めぐり

マイスタディースタッフとして活動

深井校区　堂本 良男

深井小学校では、こどもたちの学力向上のため、放課後学習に力を入れています。

民生・児童委員から2名、元教師など地域の方を含め、9名の体制で3、4年生に対し、火、金曜日に、国語・算数の復習を中心としたプリント学習を行っています。

学習が終了した順番にプリント一枚毎に採点を行い、頑張り帳に合格のシールを貼って、こどもたちの意欲を高める工夫をしています。

地域のこどもたちとともに勉強しながら、真剣に取り組んでいる眼差しを見るとき、このこどもたちが将来、立派な人になって欲しいと思います。

校区の取り組み

日置荘校区　坂本 昭

我が校区に自治会館はないが、6町会すべてに会館があります。

☆民生・児童委員の取り組みについて

(1)ふれあい食事会

①毎月各町会単位で行われるので各々特色がある。

②近くの会館に集まるため参加しやすく、人数が多い。(年間6町会合計約1,800人)

(2)お元気ですか訪問

①月1回の会議で6町会の情報交換、共有を行う。(1町会5人対象で170～180回の訪問)対象外の人の見守りも行っている。

②会議には毎回社協の係長と第一包括の所長、看護師が出席。アドバイスをいただき意見交換を行っている。

「いきいきサロン」でいきいきと!

浜寺東校区　一坪 純子

なごやかな雰囲気のわが浜寺東校区の「いきいきサロン」。毎月1回、高齢者のふれあいの場として、民生・児童委員とボランティアがお手伝しています。体操あり、歌あり、手作りあり、そして笑いありです。また、世代間交流では、高齢者と小学生とのふれあいを通じて、声をかけあうことにより、地域でのつながりを深めています。

これからも、この「いきいきサロン」が高齢者の外出を促すきっかけとなり、地域の中での仲間作りや、明日への活力になればと願っています。

充実した福祉施設

城山台校区　奥山 みくさ

城山台校区は、自然豊かな里山に開発されたニュータウンである。府立子どもライフサポートセンター・女性自立支援センターなどの福祉施設が整っている。そのため、バリアフリー化が多少行き届いており、小学校への通学路も大きな交差点を渡らず、緑道や歩道橋を利用し比較的安全に通学している。大きな事故や事件もなく現在に至っている。しかしこの地域も、経年ニュータウンの特徴である少子高齢化の波にさらされていることは否めない。

当校区では、お元気ですか訪問、ボランティアビューロー、子育てサロン、登下校見守りなどボランティア活動も活発であるが、高齢化が進みボランティアの後継者不足が現在の悩みである。

校区めぐり

みんなで にこにこ

深井西校区　澤本 美奈子

平成19年4月、深井西小学校の多目的教室で、地域子育てサークル「にこにこクラブ」がスタートしました。

にこにこクラブでは、手遊びや絵本の読みきかせをしたり、工作やダンス、時には乳ガンの研修などもしています。3年前からは、小学校5年生との交流をしていますが、いつも人見知りをしている子どもさんも、5年生のお兄ちゃんお姉ちゃんと楽しく遊ぶことができるようになりました。5年生からは、「かわいい、やわらかい」とみんなにこにこの時間になります。

安全・安心な まちづくりに向けて

東深井校区　嶋中 美佐男

東深井校区は8つの町会を、民生・児童委員12名と主任児童委員1名の13名で担当しています。

以前は家の廻りが田畑でしたが、泉北高速鉄道ができて以来、マンション、新興住宅ができ町らしくなってきました。

民生・児童委員の活動はさまざまです。最近はどこの町においても、高齢化が進みひとり暮らし世帯が増えています。各委員は、ひとり暮らし世帯の訪問や子どもの見守りなど、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

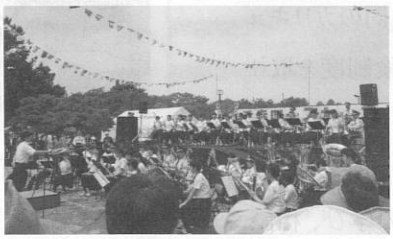
水と緑と太陽と いのちいきいき 街いきいきをテーマに

浜寺昭和校区　山下 壽子

5月20日（日）に41回目の「浜寺ローズカーニバル」が浜寺公園で開催されました。

当日は特設の舞台を中心として70数店の模擬店、バラ園内で催されるお茶会等々、来場者5万人を超す楽しいイベントが繰り広げられました。

また、旧浜寺公園駅舎（登録有形文化財）内にギャラリー、カフェ、ミニライブラリー、イベント広場が4月15日（日）にオープンしました。



住んで良かった宮山台

宮山台校区　吉田 懐子

入居が始まり50年余り、近くには須恵器の窯跡、梅や桜の名所荒山（こうぜん）公園、多治速比売（たじはやひめ）神社があり、歴史と四季を感じながらの良き散歩コースとなっています。

高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者が多いのが現状です。活動としては『いきいきサロン』『ふれあい食事会』『ふれあい喫茶』。子育て支援として『アイアイひろば』。

世代間交流として、こども園、小学校での『昔遊び』。お元気ですか訪問活動などを行ない、また青色パトロールにも協力。宮山台に住んで良かったと思っていただけるよう頑張っております。

子育てサークル「アンパンマン」

新浅香山校区　西本 有子

当校区では、子育て支援活動として、月1回「アンパンマン・サークル」を実施しています。

主に0歳から就園前の子どもたち約10名～20名が親子で、参加されています。

夏は水遊び、冬はクリスマス会、その他にも、室内運動会、手型足型製作、使わなくなった子ども用品の交換会、浅香こども園の先生による絵本の読み聞かせやエプロンシアターなど、お世話係のお母さんを中心に、いろいろな行事を行っています。

集合住宅の多い校区ですので、親子で孤立することのないように、地域の皆さんに協力していただきながら、これからも笑顔で活動していきたい。

社協だより

日常生活圏域コーディネーターについて

堺市社会福祉協議会 地域福祉課 地域共生推進係　下田 丈太

超高齢社会が進み、堺市においても要介護者の増加や介護人材不足が懸念される中、できるだけ元気な高齢社会を築くことが急務となります。

介護予防で最も必要といわれるのが社会参加です。例えば地域活動に参加する・趣味活動を行う・働く･･･、継続して活動的に生活することが予防に最も効果的と言われています。

堺市社会福祉協議会では、中区・南区につづき今年度より堺区・東区の4つの区で、日常生活圏域コーディネーター（以下、日常生活C）を配置し、地域における社会参加の場面づくりに取り組みます。

日常生活Cは社協従来の個別の生活課題に寄り添う機能と地域づくりの機能を併せ持ちます。高齢者に限らず、個々のライフスタイルにあった選択肢や多様な場面を提供・創出し、個々の生活課題の解決や長く暮らしやすい地域を実現する。これが日常生活Cの役割となります。

地域に出て、地域と交ざることを基本に、まずは地域を知ることから活動を始めていきます。民生・児童委員の皆様においては、地域のことを教えていただき、ご期待していただきながら、ご指導くだされば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

介護相談員現任研修と管外研修の報告

介護相談員連絡会報告

現任研修は、1月11日と18日の2日間のカリキュラムがあった。主な内容は、①介護保険制度を取り巻く状況　②認知症の正しい理解　③相談員活動の実践などである。堺市から14名参加。

日数が多く負担ではあったが、多くの学び、相談員としての共通の知識を得ることができました。

管外研修は、3月6日壷阪寺・慈母園。（17名でのバス移動）喜多所長の苦労話や、良き方向への導き方などのお話を聞いて感動した。

入居者が目の不自由な方なので、建物も1F～3F

の階段・廊下の一方通行・左側通行もスムーズに移動できるよう工夫されていた。所長の人柄と教育方針、入居者の皆さまの明るさが、私の考えていた暗いイメージを吹き飛ばしました。

故・常盤長老の「おもいやりの心を　広く深く」を心に銘じ、帰路に着きました。

（介護相談員　吉田　正）

第23回 堺市民生委員児童委員大会

日時：平成30年7月19日（木）　午後1時30分（受付：12時30分より）
場所：国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）　多目的ホール

第2部　講演

テーマ：「民生委員制度100年の発展と共生社会づくり」
講　師：同志社大学 社会学部社会福祉学科 教授　上野谷 加代子 氏

二足のわらじ?ゆっくりやろう

福泉上校区　井上 守

委嘱から10年余、委員長で3年目、ほとんどが自治連合会役員との兼務で、どこまで民生委員としての働きができたのか、正直なところ自信はありません。

ただ、どちらの活動も相当部分で重なっていますから、地域の中で、何がしかのお役に立っているのでしたら、まぁ良しと思っておきます。

始まりが、担当の民生委員さんの定年にあたって、当該区域内の単位自治会長だった私になんとなく『当たり?』が回ってきたもので、よくわからないままスタートしたという実感。

人生はプラスマイナスなので、動ける間は貯金をするつもりで過ごそうかと思っていますが、私は、つい持ち場を拡げてしまう悪い癖がある。コレはしなくちゃ、アレもしなくちゃと、やたら背負(しょ)い込むことなく、地域の中で何かお役に立てたらそれでいいと、本音で言えばのんきでありたい。

新年度は自治会のお役を減じていただいた。自治会と民生委員の活動とは隣り合わせ・表裏なので、協力し合い、無理なく、出来ることを出来る範囲で、ゆっくりと一生懸命させていただこう。

お辞儀とあいさつ

東陶器校区　平山 猛

民生・児童委員をお引き受けして、1年余り過ぎました。38年間、他市で勤務していたため、家には寝泊りに帰っていただけでした。泉北地区から現住所に転居して数年しかたっていないこともあり、地域の現状把握や地域の人たちとの交流も十分ではありません。しかし、自治会長を2年させていただいたことで、細い線ではありますが、広範囲の方々との繋がりができたように感じます。私自身は、健康のために年2回フルマラソンに挑戦しています。また、ジョギングすることで、周辺の地理も分かるようになりました。

定年を迎えましたが、非常勤で務めており、時間にゆとりができたこともあり、お引き受けしたこの職の重みや今後の自分自身のことを考えます。

以前に読んだ本の中に、「人生は往きだけで、帰りのない片道切符である。この旅を楽しく円滑にするのは、お辞儀とあいさつである」という一節があったことを思い出しました。

「私たちは、誰でも、生まれると『人生』という列車に乗って旅立ちます。一刻も休みなく、ひた走りに終着駅を目指して走り続けています。この人生の旅で、大勢の人と出会い、喜んだり、涙ぐんだりして生きています。この生きていくための潤滑油としての役割りを果すのが『お辞儀とあいさつ』なのです。なにげない『お辞儀』なにげなく交している『あいさつ』ですが、とても大切です」と続いていたように記憶しています。

この意味をさらに噛み締めながら、今後も研鑽に励み、訪問活動や地域活動などに活かすとともに、自分自身の振り返りに役立てたいと考えています。

ご指導ご鞭撻いただきますようお願いいたします。

皆さんの自由投稿お待ちしています

エッセイ、川柳、短歌、俳句、など日常の感慨や貴重な体験談を、また民生委員児童委員連合会にたいするご意見やご質問などお寄せください。

みんじれん堺　編集委員会

御霊よ安らかに

H30. 1.17没　安井校区　君吉　雄司 様
H30. 2.24没　三宝校区　桑原　敏之 様

「100年の歩み 受け継ぐ」民生委員記念碑の除幕式

大阪府民生委員（方面委員）制度創設１００周年記念事業として、大阪市中央区北浜の大川町公園で、５月１２日、記念碑の除幕式と献花式が、大阪府・大阪市・堺市三者共同の広報・ＰＲ活動の一環として開催されました。

この制度は、１９１８年、当時の林市蔵府知事らの発案で創設された「府方面委員制度」を前身として始まりました。

公園内の林元知事の像の脇に設置された記念碑には、方面委員の役割が記され、「府方面委員制度は、全国に普及することになり、昭和、平成と続き、現在の民生委員制度の基礎として受け継がれている」と紹介されています。

式では、大阪市民生委員児童委員協議会の白国哲司会長が、「これまでの民生委員諸先輩方の志と精神、歩みを受け継ぎ、次の１００年に向けて飛躍、発展への一歩を踏み出す契機としたい」と挨拶され、参加者約30名が献花台に花を供えました。

平成30年度 事業計画

研修・広報委員会報告

今年度は、下記の事業計画を推進します。

1. 堺市民生委員児童委員長研修会の開催

日　時：9月25日（火）研修会　14:00～（予定）
　　交流会　18:00～（予定）
場　所：ホテル アゴーラ リージェンシー堺
講　演：「民生委員児童委員活動と校区委員長の役割」（仮称）
講　師：加納 剛 堺市民児連会長
テーマ：「子どもの貧困～負の連鎖を断ち切るには～」（仮称）
講　師：桃山学院大学 社会学部社会福祉学科 准教授 金澤 ますみ 氏

2. 「みんじれん堺」の発行　6月・12月

みんじれん堺62号特集「児童委員・主任児童委員に聞く児童委員制度創設70周年」

（委員長　星 忠宏）

前号で、校区めぐり錦西校区の執筆者を「宮里 眞澄」様とお伝えしましたが、正しくは「松浦 三津子」様の誤りでした。
お詫び申し上げ、訂正いたします。

編集後記

何も分らない私が編集委員として参加させていただきました。

高齢社会になっている今、各地域でのさまざまな課題に取り組んでいる民生・児童委員の生の声を投稿していただいて、多くの皆さまに読んでいただき、問題点を少しでも解決できれば幸いです。

これからも「みんじれん堺」の編集にご協力をお願いいたします。

（松岡 孝）